

## 報告要旨

### 【第1報告】

移民/植民研究から<跨境>研究へ  
—サハリン島から見た北東アジア—  
中山大将

日本帝国勢力圏への人口移動とその外部へのそれとは、「植民」「移民」と峻別されて政策が立てられ、かつ政策提言を前提として学術的研究も行われていた。戦後の日本における歴史研究においてもこれらの峻別は引き継がれたが、近年この峻別を撤廃した包括的な人口移動研究が進められるようになり、「移民」「越境」という言葉が用いられるようになった。本報告では、さらに「跨境」という概念を導入して、北東アジア世界をサハリン島から眺め直すことを試み、戦後サハリンに「サハリン残留日本人」が発生した歴史的背景と近年の動向を論じることで、彼女ら/彼らが北東アジアにおける「跨境性」を最も体現した「跨境者」であることを示す。

### 【第2報告】

麦粒から青菜まで  
—江蘇省永忠村の社会変遷—  
王華

蘇中平原東部に位置する永忠村はかつては穀物生産を主とする村であった。改革開放後、蔬菜栽培へ転換し、上海、無錫、揚州、泰州、南通、塩城などの都市の蔬菜供給地となることに成功した。永忠村の蔬菜農家もこのために裕福になり、都市的生活を享受するようになった。これらの一連の現象は、政府と市場自由化との相互作用によるものである。本報告では、人類学的フィールド調査を用い、永忠村に入りこみ蔬菜農家や経営者を訪問して、この永忠村の社会変遷過程を解明する。永忠村の農産業構造調整の経験と事実の回顧を通して、本報告では国家権力が農民経済活動の管理統制から退いたのが決して本意であったわけではないことを示す。一方、政府の諸々の努力は毛沢東時代に作り出した集団主義との断ち切りがたい関係の存在を意味しており、それ故に経済自由化のみが注意すべき観点ではないと反駁できる。以上をふまえ、本報告では永忠村の変遷が決して政治的空白によって生じたものであるとはせず、国家権力と新自由主義の相互作用の結果であると考ええる。永忠村の変遷過程が「三農」問題の解決のために、何かしらのヒントを提示し再認識を促すことができればと願う。

キーワード：農村、蔬菜、社会変遷、新自由主義、国家権力、三農問題。

## 从麦粒到菜叶：江苏永忠村的社会变迁

王 华

地处苏中平原东部的永忠村曾经是一个以生产粮食为主的村庄。在改革开放之后，它逐渐转向蔬菜种植，并成功地成为上海、无锡、扬州、泰州、南通、盐城等城市的蔬菜供应基地。该村的菜农们也因此富裕起来，过上了城市化般的生活。这一切源于政府和自由化市场的共同作用。本文采用人类学的田野调查方法，深入永忠村访问菜农和农业经纪人了解该村的社会变迁过程。通过回溯永忠村农业产业结构调整的经验事实，本文揭示了国家权力并非心甘情愿地从管控农民经济活动中撤退出来。相反，政府的种种努力表明了其与毛泽东时代集体主义做法的藕断丝连，从而驳斥了一种唯经济自由化是瞻的观点。基于此，本文认为永忠村的变迁并不是发生在政治真空中，而是受国家权力与新自由主义共同作用的结果。笔者希望，永忠村的变迁可以为“三农”问题的解决带来一些启发和反思。

关键词：农村；蔬菜；社会变迁；新自由主义；国家权力；三农问题

### From Wheat to vegetables: Social Change of Yongzhong Village in Jiangsu

Wang Hua

Located in the eastern Jiangsu, Yongzhong village used to be plant wheat about twenty-five years ago. After the reform and opening up, it began to grow vegetables gradually, and succeeded in becoming the vegetable supply base for city of Shanghai, Wuxi, Yangzhou, Taizhou, Nantong, Yancheng. Thus, the farmers become rich and live a life like city people. The reason for all this is the joint action of the state power and market liberalization. Making use of participant observation and interviews in order to show the social change in this village, the article examine the Chinese state reluctantly retreat from the management of rural economic activities. And this shows that the government efforts are associated with the extension of the Maoist policies. Through a critique of “economic liberalization” rationale, this article discusses that the social changes in Yongzhong village did not occur in a political vacuum, but rather the result of the role of the state power and the neo-liberalism. With the ethnographical approach focusing on Chinese farmers’ lifestyles, I seek to rethink the “three farming” policies from the social changes of Yongzhong village.

Keywords: rural; vegetable cultivation; social change; neo-liberalism; state power; the “three farming” policies.

### 【第3報告】

南洋華僑における知識と華字紙の役割について

櫻田涼子

ビルマ出身の華僑である胡文虎と胡文豹の兄弟は、父から引き継いだラングーンの漢方薬行「永安堂」の製品の販売で財をなし、東南アジア一帯でビジネスを展開した。後に移り住んだシンガポールにおいて工場を設立した一方、華字紙『星洲日報』を1929年に創刊した。

本稿は『星洲日報』創刊時の記事や広告、論調を概観することにより、英領マラヤとシンガポールの南洋華僑の間で、どのような中国イメージが形成されたかについての検討を試みた。また『星洲日報』の創刊は、東南アジア一帯で展開された胡兄弟の経営をさらに発展させる製品広告の掲載を目的としていたと同時に、経済的成功をおさめた胡文虎にとって新聞事業とは、労働階級を中心とした南洋華僑の知識を引き上げ啓蒙する社会事業の一環であったことを指摘した。

### 【第4報告】

ローカライズする空間

—大行と亳州の相互構築—

傅琦

安徽省亳州市の薬材市場におけるフィールド調査とその研究結果から、亳州市の“薬都”としての地位の安定と発展が市場自身の機能だけでは達成できなかったものであったことを示す。この過程において、地方政府の役目は決して小さくなく、地方政府が大行を設立したことはその重要な一環であった。ローカライズする空間として、大行の設立と地域の歴史には連続性があるのである。大行は地方市場における「場内」と「場外」の区別を促した。これらは同時にふたつの社会空間でもある。空間化するローカルとして、亳州市の“薬都”としての地位は場内空間を経由した象徴資本の集積によって安定を得ている。場内は象徴資本を集積し、場外は場内に便乗する。これこそが“薬都”経済の機能ロジックである。

キーワード：空間、ローカル、場、象徴資本、政府行為、グローバル化

地方化的空间：大行与亳州的互构  
傅琦

安徽亳州中药材交易市场的田野调查与研究结果表明，亳州药都地位的稳固与发展仅依靠市场自身的作用是不可能达成的。在这过程中，地方政府的角色不容低估，地方政府设立大行是个关键环节。作为地方化的空间，大行的设立与地方历史一脉相承。大行促成了地方市场存在“场内”、“场外”之别。这同时也是两类社会空间。作为空间化的地方，亳州的药都地位正是经由场内空间对象征资本的积聚而得到稳固。场内积聚象征资本，场外搭场内的便车，这即是亳州药都经济的运作逻辑。

关键词：空间 地方 场 象征资本 政府行为 全球化

Localizing Space: Dahang and Baozhou in Action  
Fu Qi

Bozhou has been best known for its position as one of centers of traditional Chinese medicine. This position, however, is impossible to be a result from the market itself. The local government has been tremendously engaged in the whole process as making place to be one of cores to the national market of traditional Chinese medicine. This article examines relationships between Dahang and the position of Bozhou as one of the traditional Chinese medicine markets that focus on the relationship between space and place. As a localized space, the establishment of Dahang was drawn on the historical past of Bozhou. It makes space into two parts, outside and inside, which makes Bozhou distinctively featured in terms of its locality. Bozhou's position as one of cores in traditional Chinese medicine market is stabilized through collection of symbolic capital in the "inside"; the "outside", however, also takes chances of the "inside" to go through. This is the logic of economic operation in the traditional Chinese medicine market of Baozhou.

## 【第5報告】

聖なる森の民俗学  
—沖縄を事例として—  
平井芽阿里

本稿は、2012年9月21日に中国南京大学で行った“The Folklore of the Sacred Forest in Okinawa, Japan／神圣的森林民俗学考：以日本沖縄为例”の発表要旨である。本発表では、奄美、沖縄、宮古、八重山諸島を含む南西諸島地域に点在する「聖なる森」＝御嶽（うたき）を対象とし、森が聖なる場所として見なされる要因について考察した。本発表では事例として沖縄県宮古島西原地域の村落祭祀、および担い手である神役の現状について触れた上で、森の中で神役が同じ供物、同じ神歌、同じ祈りを同じように繰り返し神々に捧げてきたこと、その営みが森を聖なる場所たらしめているのではないかと結論づけた。

## 【第6報告】

儀式の変遷とアイデンティティ危機  
—湖北王村葬送儀礼を例として—  
胡艶華

葬送儀礼の標準化は国家が権力を通して統一文化を示し社会統合を促進する重要な手段である。葬送儀礼の形式変化に伴って、民間では死亡に対する儀式の意識形態に齟齬が生じ、儀式が理に適っているかどうか決めることは国家政策と社会的地位とが共謀した結果となる。このため葬儀の一致性に関するアイデンティティは変化し始め、元々の儀式の意義は解体され、村民の文化アイデンティティにもジェネレーション・ギャップが現われ、葬送儀式が顕現させるのはもはや村民の文化アイデンティティではなく、そこに現われるのは社会地位上の構造的不平等性であり、農村社会の統合に対してはデメリットの面が多い。文化多元主義の角度から農村儀式改革を推進するべきであり、これにより儀式問題において国家と農民の間に良好な関係の構築を促進することができる。

## 仪式变迁与认同危机：以湖北王村丧葬仪式为例

胡艳华

丧葬仪式的标准化建构是国家通过权力呈现统一文化促进社会整合的重要手段。随着丧葬形式的变化，民间对死亡仪式的意识形态受到冲击，决定仪式动作是否合理遂成为国家政策与社会地位共谋的结果。由此关于葬仪的一致性认同开始发生变化，原有的仪式意义被解构，村民的文化认同也凸显出代际差异，丧葬仪式彰显的不再是村民的文化认同，而是其社会地位上结构性的不平等，相反更不利于农村社会的整合。应在关注文化多元化的意义上推动农村仪式改革，以促进国家与农民在仪式问题上的良性互动。

## 【第7報告】

朱熹の社倉法について

—朱熹の哲学と農村政策との関連—

福谷彬

宋学者は哲学者であると同時に為政者であった。彼らの哲学は政治の根拠であり、政治は哲学の実践であったと言える。本報告ではこうした宋学者の哲学と政治の関連について、王安石の青苗法と朱熹の社倉法を比較を通して、その政策上の違いがいかなる民衆観に基づき、その民衆観はいかにして経書に関連付けられているのかということについて考察を加えた。また青苗法と社倉法について、政府主体の制度として青苗法と、農村主体の制度としての社倉法として比較しつつ、両制度が実際にいかなる結果をもたらしたかについても論じる。また合わせて近代における社倉法と関連した日中間の学問的交流についても合わせて触れることとしたい。

## 【第8報告】

済寧市石炭採掘の影響および採炭区農民の抗争

李徳營

化石燃料エネルギーは現代社会において十分な意義を有し、済寧市はその豊富な地下埋蔵石炭資源により便益を得ている。ここ数年、済寧市の経済は成長し、その大部分は石炭工業に負っている。しかし、済寧市の特殊な地質条件により、石炭採掘が容易に地盤沈下や水溜り発生などの災害を誘発し、災害の分布から農村では多くの代償を負わされていると言える。その代償として、補償金は済寧市沈下区域農民に対して重要な意味を持っている。しかし、現在の行政体制と賠償規制の下では、村民の権益は公共権力の侵害を受けている。事件の中では関係主体の能力不均衡が農民抗争の結果を暗示した。

## 济宁市煤炭开采的影响以及采煤区农民的抗争

李德营

化石能源对于现代社会具有十分重要的意义，济宁市因其地下蕴藏有丰富的煤炭资源而得其便。近几年济宁市的经济扩张很大程度上得益于煤炭工业。然而，由于济宁市特殊的地质条件，其煤炭开采容易形成塌陷、积水等地质灾害，从地质灾害的分布中可以发现其代价更多分配于农村。作为对承担代价的补偿，补偿款对于济宁市塌陷区农民具有重要意义。但在当前的行政体制与赔偿机制下，村民的权益受到公共权力的侵害。而事件中相关主体力量对比的失衡则预示了农民抗争的结局。

(中文和訳：中山大将・巫靚)